



Title	＜資料紹介＞忍頂寺文庫蔵『漢語よし此』
Author(s)	新稲, 法子
Citation	語文. 2000, 74, p. 33-42
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68964
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

資料紹介 忍頂寺文庫蔵『漢語よし此』

新稲法子

いわゆる漢語どいつは、明治期の漢語流行を示す資料として注目されてきたものであり、近年も浅野敏彦氏が『新作流行漢語都々逸初編』を、『新作流行漢語都々逸初編』の複製・翻刻・漢語索引』に紹介されている。この『新作流行漢語都々逸初編』は、一荷堂半水の作で心齋橋富士屋政七の板、忍頂寺文庫にも一本を蔵する（G281-10）。幕末から明治にかけて大阪で出版され、趣味人に喜ばれた美しい三ツ切り本の一つであるが、実は忍頂寺文庫には、同種のどいつ本が大量に収められているのである。

本稿は、その中から、『新作流行漢語都々逸初編』と同じ作者の『漢語よし此』（G281-100）を、浅野氏に倣って翻刻するものである。先に刊行された『語文』第七十輯の特輯は、忍頂寺文庫の本格的な研究の第一歩であったが、この「眠れる文庫」を活用することで恩恵を蒙むるのは、歌謡研究者だけではない。今回、明治の漢語研究の資料としての体裁で紹介するゆえんである。

書誌

『漢語よし此』は、縦7.6×横17.6。忍頂寺務氏の手による保護表紙付き。題箋「漢語よし此」。錦絵の表紙右半分は洋館を背景にした洋装の女性の立ち姿、左側は手紙を書き終えたところであろうか、

ランプの下で筆を口にくわえ、巻紙を手にした女性の図。見開きは雪景色の渡し場の図、船頭と男女が描かれており、男だけがこちらを向いている。ともに小信こと二代目長谷川貞信の手による。作者一荷堂半水の序も色刷り。本文は全16丁、1丁表に「静村文庫」の方印が押されている。挿し絵は16図、毎丁表にある。収められたどいつは全部で48曲。奥付によると版元は「大阪心齋橋通八橋筋北へ入本屋為助」。「絵本類」「東京大阪錦絵類」「新文句大津画ぶよしこのぶし」の広告が並ぶ。自序、奥付とも年月の表記はないが、『新作流行漢語都々逸初編』と同じ頃の作と推定される。

本書の題箋は「よし此」だが、柱は「○漢語ドゥー」、序には「度々一辺に唐土までも」という条がある。一方『新作流行漢語都々逸初編』はこれとは逆に、序に「世に流行唄、さまざまなる中に、とりわけうかれよしこのは今に流行うせずして」とある。よしこのとどいつは厳密には異なる音曲であるが、この頃既に区別が付きにくくなっていたようである。西沢爽氏も「明治の漢語都々逸」で『新作流行漢語都々逸初編』を取り上げる際、「表題では「都々逸」、序では「よしこの」と記されているあたり明治初の上方本として興味がある」と言い添えておられるが、よしこの本も

どいつ本と特に区別されていない。『漢語よし此』も、少なくとも国語資料としては、従来の称である「漢語どいつ」の範疇に含まれると見なしてよいだろう。

解題

『漢語よし此』も、他の漢語どいつと同様の体裁で記されている。振り仮名は、翻刻では便宜上表記を改めたが、原文では

うそのかづく^{はつぼう}発砲^{はつぱう}せず^{はつぱう}に^{はつぱう}実^{はつぱう}も^{はつぱう}発表^{はつひやう}して^{はつひやう}ほしひ^{あらはし}

と右のみの語と左右に振られているものがある。右を唄ったに違いないが、左傍にその意味を記している漢語は、当時まだ目新しかったものである。しかしながら当然のことではあるが、この種の書物に収められている作品は、必ずしもその時点での新作とは限らないので、ここに現れた漢語を初出と見なすには相当慎重にならなければならない。

また、漢語どいつを国語資料として取り上げる場合、これまで問題にされてこなかったように見受けられるが、江戸で出版されたものと上方のとは、ややその出自が異なっている。

忍頂寺務氏の集められた『新作流行漢語都々逸初編』や『漢語よし此』のような三ツ切り本は、元来大阪の旦那衆が茶屋遊びの一興に楽しんでいた贅沢なものである。享受者の位相は、ともに漢字の素養があるにしても、江戸と全く同じというわけではない。江戸版と上方版を同列に資料として扱う際には、これを念頭に置く必要がある。

前掲の西沢爽氏の「明治の漢語都々逸」では、漢語どいつと詩入りどいつと一緒に論じているが、これらの変種のどいつを概観すると、詩入りどいつ、漢語どいつ、英語どいつという流れになる。出版状況から見ても、まず詩入りどいつが維新前に京都で流行し、大阪に移り、東京に伝わっている。漢語どいつは詩入りどいつよりやや遅れ、明治になってから刊行されているから、詩入りどいつを流行らせた漢学書生が、維新後、中央で役人となって漢語を大いに用い、詩入りどいつだけに飽きたらず、漢語どいつをも生み出した、という図式が推測できる。ちなみに忍頂寺文庫には詩入りどいつで一冊になったものも十三点確認できるが、これもまた他に比類のない数で、現存する詩入りどいつの大半が網羅されているといつてよい。

詩入りどいつから漢語どいつへという図式の延長線上に、漢語の代わりに英語を用いた英語どいつがある。これも漢学から洋学という当時の世相を反映したといえるものだが、忍頂寺文庫にはこの豆本『都々逸撰文句』(G273)もまた収められていることを付け加えておく。

注

(1) 浅野敏彦『新作流行漢語都々逸初編』の複製・翻刻・漢語索引(大阪成蹊女子短期大学研究紀要)第三十四号、平成九年。

(2) 西沢爽『日本近代歌謡史』、平成二年。

(3) 書名と請求記号は次の通り。

『唐詩流行五色染詩入紋句 第二』G230-1

『唐詩流行五色染詩入紋句 第三』G230-2

『新編甚九婦詩 初編』G234-2

『新編甚九婦詩 二編』G234-1

『唐詩のさかな』G235(補修の際にでも綴じ誤ったのか、内容は『唐詩

流行五色染詩入紋句 第四

『すいのふところ 拾一篇』 G 281-42

『みやこ大流行 雑詩よしこのぶし』 G 281-59

『当時流行 詩入芳孝之上』 G 281-67

『当時流行 詩入芳孝之下』 G 281-68

『詩入芳此 初編』 G 281-84

『詩入百々逸 初編』 G 281-102

『詩入百々逸 二篇』 G 281-103

凡例

・序文以外の本文のルビは（右ルビ／左ルビ）とした。／ののないのは右ルビのみの語である。

・通し番号を施し、末尾に（丁数・表裏・通し番号）の形で所在を示した。

翻刻

序

今（いま）やうかれ哥（うた）の。流行（りうかう）

さかんなるまに。又（また）もや是（これ）に

漢語（かんご）をまじへ。度々（どゞ）一辺（いつぺん）に

唐土（もうこし）までも。男女（なんによ）の意気（ゐき）

はかわらじとて。こゝに

あらはす新作（しんさく）新板（しんぱん）。これを

もとめて節（ふし）よくも。うたひ

給（たま）はゞ和漢（わかん）とも。ひとつに

惚（ほれ）てくることになん

浪花

一 荷堂半水誌 半 本

1 愚論（ぐろん／おろかなこと）俗論（ぞくろん／いやしきこと）

モフやめにしてしんじつ応接（おゝせつ／おゝたい）きめてほし

（01-オ01）

2 きめた約誓（やくせい／ちかひを）ちがはぬやうにしかと答論（とうろん／ろんをこたへる）仕やさんせ（01-ウ02）

3 それとこゝろで垂察（すいさつ／すいりよう）すればまたも造言（さうげん／つくりことは）仕やさんす（01-ウ03）

4 うそのかづく発砲（はつぽう／はなつてつぼう）せずに実（じつ）も発表（はつひやう／あらはし）してほしひ（02-オ04）

5 アレ待（また）さんせと憤発（ふんぱつ／げんきをいだす）してもにくや疑心（ぎしん／うたがひごゝろ）にいぬる気は（02-ウ05）

6 おなごの微力（びりよく／すこしのちから）と主（ぬし）や気（き）づよくもふり切（き）り去（いな）んす遺憾（ゐかん／ざんねん）さは（02-ウ06）

7 熟慮（ちゆくりよ／よくかんがへること）して見りやなほさら主（ぬし）のことはに感銘（かんめい／よろこびわすれぬこと）するばかり（03-オ07）

8 いややおまへの労詞（ろうし／ねぎらひことば）はやめて実（じつ）な就約（じうやく／やくそくきまる）しやさんせ（03-ウ08）

9 慰勞（じやうろう／つかれをなぐさむ）さゝんす気（き）は嬉（うれ）しひがしんじつ篇志（とくし／あつきこゝろざし）はよそへして（03-ウ09）

10 よしやおまへの国情(こくちやう／くにのこゝろ)にせよ無理(む

り)な応酬(おうしう／へんとう)できはせぬ(04ーオ10)

11 わたしがいふこと主(ぬし)や尾撃(びげき／しりへをうつ)していつか応戦(おうせん／こちらからまたゝかふ)やみはせぬ

(04ーウ11)

12 すへのやくそく堅確(けんくはく／かたくしつかりしたこと)とつてぬしの仁慮(じんりよ／じひなおほしめし)をまつばかり

(04ーウ12)

13 人眼(ひとめ)潜行(せんかう／しのでゆく)して逢(あふ)なかをにくや失策(しつさく／やりぞこなひ)さゝれては(05ーオ13)

14 せめて一旦(いったん／ひとあき)氣(き)をいれかへて常(つね)の隔心(かくしん／へだてごゝろ)やめさんせ(05ーウ14)

15 あれほど必然(ひつぜん／きつとしたこと)した其(その)ことをまたも変革(へんかく／あらためてかはること)しやさんす

(05ーウ15)

16 ぬしが旧府(きうふ／ききやう)にかへるとしらずわたしや形影(けいゑい／かげなり)してはまつ(06ーオ16)

17 よしや交誼(かうぎ／まじはりのぎり)は立(た)ずとまゝよぬしの偉烈(ゐれつ／すぐれてつよき)を他(た)よりとも(06ーウ17)

18 それと事状(じじやう／ことのしだひ)はまだ聞(きか)ねども顯然(げんぜん／あきらかなるは)おまへの素振(そぶり)では

(06ーウ18)

19 またさず不帰(ふき／かへらず)せずおもふたときに即今(そく

こん／ただいま)来(き)てほしかのひとは(07ーオ19)

20 くやしおもひに鴝雁(こうがん／かりがね)見ては飛行(ひぎやう／とびゆき)したいよあのやうに(07ーウ20)

21 すきな林泉(りんせん／けしきを)見(み)ているとても囊中(のうちう／はらのうち)なければ左(さ)ほどにも(07ーウ21)

22 もはや離散(りさん／わかるゝ)の雲(くも)かとおもやともにしらせる暁天月(けうてんげつ／あけのつき)(08ーオ22)

23 文(ふみ)を翻翩(ぺん／たかへし／)エタにくらしやいかに壮士(さうし／わかひ)といひながら(08ーウ23)

24 こがれまづほど遅日(ちじつ／おそきひ)はながし日没(にちぼつ／ひくれに)してほしけふだけは(08ーウ24)

25 傾国(けいこく／くるわ)素方(そだち)といわれて居(い)れどいつも愁心(しうしん／うれいごころ)するばかり(09ーオ25)

26 爪(つめ)とり鉄刀(きやうと／ばさみ)をもつさへそれともしや離縁(りゑん／てぎれ)にならふかと(09ーウ26)

27 今(いま)さらわたしを孤雲(こうん／はなれぐも)のやうにはなして他郷(たけう／よそほか)へぬしはゆく(09ーウ27)

28 しあんつくぐ煙管(えんくはん／きせるを)つゑにまたも浮雲(ふうん／あぶない)なおもひごと(10ーオ28)

29 させてもろうたよこの煙草管(えんさうばこ／たばこぼん)枕台(ちんだい／まくら)がはりに初会(しよくわい)から(10ーウ

29)

30 世帯(せたい)の苦心(くしん／くろう)は覺悟(かくご)のうへよぬしが他生気(たせうき／うはきで)なひならば(10ーウ30)

31 うらやましひぞへ郎(ろう／ぬし)にはかへてあけの霞形(かぎ

やう／かすみ）が横に寝（ね）る（11―オ31）

32 けのお今宵（こよい）にアノ好月（こうげつ／すくつき）もおほ
ろ照光（しやうこう／てらし）の首尾（しゆび）のよさ（11―ウ
32）

33 すげなひおまへのその一声（いつせい／ひとこへ）が忘（ぼう／
わすれ）じられぬよほとゝぎす（11―ウ33）

34 雨（あめ）にや蝶（てう）さへ苦心（くしん／くろう）はすれど
かぜにや楽飛（らくひ／たのしむ）なそひごゝろ（12―オ34）

35 花（はな）のゑがほが赤縄（せきしよ／ゑにし）となつてやがて
可笑（かせう／うれしい）のさくらん坊（ぼう）（12―ウ35）

36 親（おや）のゐけんも空吹風（くうすいふう／そらふくかぜ）よ
なんのきゝましよ良（ろう／ぬし）のそば（12―ウ36）

37 へだてられたる双方（さうはう／ふたり）が中（なか）は書（し
よ／ふみ）か夢裏（むり／ゆめ）かできかしたい（13―オ37）

38 身をいれられた艶書（えんしよ／てがみ）をかいて贈答（ぞうた
ふ／へんじが）してほし氣（き）やすめに（13―ウ38）

39 ぬしや風（かぜ）の様（やう）に尋問（しんもん／とわんす）な
れどわたしのこゝろは不散（ふさん／ちりは）せぬ（13―ウ39）

40 転動（てんどう／びつくり）した夜（よ）に氣（き）がどきつく
よおもはず喜悅（きゑつ／うれし）といふてから（14―オ40）

41 口舌（くぜつ）しながら醉眠（すいみん／よいねむる）したで涙
痕（るいこん／なみだのうらみ）なかゝらでる笑（ゑ）がほ（14―
ウ41）

42 昼夜（ちうや／よるひる）こゝろにあいつめながら久遠（きうえ
ん／ひさしくとほく）されたよそのひとに（14―ウ42）

43 宵（よい）にやはづかし初会（しよくはい／はじめて）の人（ひ
と）も今晩（こんけう／けさは）にくらしつみなひと（15―オ43）

44 大雨（たいう／あめ）も粹（すい）してふりつゞくことわたしの
ためし涙（るい／なみだ）ほどに（15―ウ44）

45 すへのやくそくさへ違意（ゐい／ちがひが）なくば一夜（いちや／
ひとよ）ぐらいとおもへども（15―ウ45）

46 面（めん／かほ）も見られずモフこのごろは好夢（こうむ／ゆめ）
も見られず遠座（とぼざ）かり（16―オ46）

47 膝（ひざ）に一夜（ひとよ）さおく涙跡（るいせき／なみだあと）
もいく夜（よ）さわたしの袖裏（しゆり／そで）にとめ（16―ウ
47）

48 此マア暁烏（けうあ／あけがらす）のからすの夜（よ）ると寝（ね）
すごしたよ喜悅（きゑつ／うれし）さに（16―ウ48）

【資料1】 右ルビ、左ルビが振られている漢語（漢字）
一字めの漢字の音読みによって五十音順に並べた。

【ア行】

違 意 〓 ゐい／ちがひが
遺 憾 〓 ゐかん／ざんねん
一 声 〓 いっせい／ひとこへ
一 旦 〓 いったん／ひとあさ
一 夜 〓 いちや／ひとよ
偉 烈 〓 ゐれつ／すぐれてつよき
煙 管 〓 ゐんくはん／きせるを
艶 書 〓 えんしよ／てがみ
煙 草 筥 〓 えんさうばこ／たばこぼん
応 酬 〓 おうしう／へんとう
応 接 〓 おゝせつ／おゝたい
応 戦 〓 おうせん／こちらからまたゝかふ

【カ行】
霞 形 〓 かぎやう／かすみ
隔 心 〓 かくしん／へだてごゝろ
可 笑 〓 かせう／うれしい
感 銘 〓 かんめい／よろこびわすれぬこと
喜 悅 〓 きゑつ／うれし
喜 悅 〓 きえつ／うれし
疑 心 〓 ぎしん／うたがひごゝろ

* 15ーウ 45
* 02ーウ 06
* 11ーウ 33
* 05ーウ 14
* 15ーウ 45
* 06ーウ 17
* 10ーウ 28
* 13ーウ 38
* 10ーウ 29
* 04ーウ 10
* 01ーウ 01
* 04ーウ 11
* 11ーウ 31
* 05ーウ 14
* 12ーウ 35
* 03ーウ 07
* 14ーウ 40
* 16ーウ 48
* 02ーウ 05

久 遠 〓 きうえん／ひさしくとほく
旧 府 〓 きうふ／ききやう
曉 鳥 〓 けうあ／あけがらす
曉 天 月 〓 けうてんげつ／あけのつき
鉄 刀 〓 きやうと／ばさみ
苦 心 〓 くしん／くろう
苦 心 〓 くしん／くろう
愚 論 〓 ぐろん／おろかなこと
空 吹 風 〓 くうすいふう／そらふくかぜ
形 影 〓 けいゐい／かげなり
傾 国 〓 けいこく／くるわ
堅 確 〓 けんくはく／かたくしつかりしたこと
顕 然 〓 げんぜん／あきらかなるは
孤 雲 〓 こうん／はなれぐも
鴟 雁 〓 こうがん／かりがね
交 誼 〓 かうぎ／まじはりのぎり
好 月 〓 こうげつ／すくつき
好 夢 〓 こうむ／ゆめ
国 情 〓 こくぢやう／くにのこゝろ
今 曉 〓 こんけう／けさは

【サ行】
事 状 〓 じじやう／ことのしだひ
失 策 〓 しつさく／やりぞこなひ
愁 心 〓 しうしん／うれいごころ

* 14ーウ 42
* 06ーウ 16
* 16ーウ 48
* 08ーウ 22
* 09ーウ 26
* 10ーウ 30
* 12ーウ 34
* 01ーウ 01
* 12ーウ 36
* 06ーウ 16
* 09ーウ 25
* 04ーウ 12
* 06ーウ 18
* 09ーウ 27
* 07ーウ 20
* 06ーウ 17
* 11ーウ 32
* 16ーウ 46
* 04ーウ 10
* 15ーウ 43
* 06ーウ 18
* 05ーウ 13
* 09ーウ 25

就 約 じうやく／やくそくきまる

* 03
—ウ 08

昼 夜 ちうや／よるひる

* 14
—ウ 42

* 14
—ウ 42

袖 裏 じゆり／そで

* 16
—ウ 47

枕 台 ちんだい／まくら

* 10
—ウ 29

* 10
—ウ 29

熟 慮 ぢゆくりよ／よくかんがへること

* 03
—オ 07

軋 動 いてんどう／びつくり

* 14
—オ 40

* 14
—オ 40

書 二 じよ／ふみ

* 13
—オ 37

答 論 とうろん／ろんをこたへる

* 01
—ウ 02

* 01
—ウ 02

照 光 じやうこう／てらし

* 11
—ウ 32

篤 志 たくし／あつきこゝろざし

* 03
—ウ 09

* 03
—ウ 09

慰 勞 じやうろう／つかれをなぐさむ

* 03
—ウ 09

【ナ行】

* 15
—オ 43

* 15
—オ 43

初 会 じよくはい／はじめて

* 15
—オ 43

日 没 じちぼつ／ひくれに

* 07
—ウ 21

* 07
—ウ 21

尋 問 じんもん／とわんす

* 13
—ウ 39

囊 中 うちう／はらのうち

* 08
—ウ 24

* 08
—ウ 24

仁 慮 じんりよ／じひなおほしめし

* 04
—ウ 12

【ハ行】

* 04
—ウ 12

* 04
—ウ 12

垂 察 じさいつ／すいりよう

* 01
—ウ 03

発 表 ぱつひやう／あらはし

* 02
—オ 04

* 02
—オ 04

醉 眠 じいみん／よいねむる

* 14
—ウ 41

飛 砲 ぱう／はなつてつぽう

* 07
—ウ 20

* 07
—ウ 20

赤 繩 せきしよ／ゑにし

* 12
—ウ 35

飛 行 ひぎやう／とびゆき

* 02
—オ 04

* 02
—オ 04

潜 行 せんかう／しのんでゆく

* 05
—オ 13

尾 撃 びげき／しりへをうつ

* 07
—ウ 20

* 07
—ウ 20

造 言 ざうげん／つくりことは

* 01
—ウ 03

微 力 びりよく／すこしのちから

* 04
—ウ 11

* 04
—ウ 11

壯 士 さいし／わかひ

* 08
—ウ 23

必 然 びつぜん／きつとしたこと

* 05
—ウ 15

* 05
—ウ 15

贈 答 ぞうたふ／へんじが

* 13
—ウ 38

浮 雲 ふうん／あぶない

* 10
—オ 28

* 10
—オ 28

双 方 さいはう／ふたり

* 13
—オ 37

不 散 ふさん／ちりは

* 07
—オ 19

* 07
—オ 19

即 今 すぐこん／ただいま

* 07
—オ 19

憤 発 ふんぱつ／げんきをいだす

* 02
—ウ 05

* 02
—ウ 05

他 郷 いたけう／よそほか

* 09
—ウ 27

変 革 へんかく／あらためてかはること

* 05
—ウ 15

* 05
—ウ 15

他 生 気 いたせうき／うはきで

* 10
—ウ 30

翩 翩 ぺん／たかへて

* 08
—ウ 23

* 08
—ウ 23

大 雨 いたいう／あめ

* 15
—ウ 44

忘 記 ぼう／わすれ

* 11
—ウ 33

* 11
—ウ 33

【タ行】

* 09
—ウ 27

【ナ行】

* 09
—ウ 27

* 09
—ウ 27

【マ行】

夢 裏||むり／ゆめ
面 ||めん／かほ

* 13ーオ 37
* 16ーオ 46

離 縁||りゑん／てぎれ

離 散||りさん／わかるゝ

林 泉||りんせん／けしきを

涙 ||るい／なみだ

涙 痕||るいこん／なみだのうらみ

涙 跡||るいせき／なみだあと

郎 ||ろう／ぬし

良 ||ろう／ぬし

勞 詞||ろうし／ねぎらひことば

【ヤ行】

約 誓||やくせい／ちかひを

* 01ーウ 02

【ラ行】

楽 飛||らくひ／たのしむ

* 12ーオ 34

【資料2】漢語一覧

①ただし、和製漢語、漢語を含む混種語
などもすべて含む。

②漢語の次にある数字は次のことを表す。

1.. 右ルビ左ルビのある漢語

2.. 右ルビのみ振られた漢語

3.. ルビなしの漢語（平仮名書きのものには漢字をあてた）

4.. 左ルビ中にみえる漢語（漢字は適宜あてた）

③一字めの漢字の音読みによって五十音順に並べた。

④混種語で前項が和語の語は、後項の漢字の音のところに配した。（例）浮気↓

【ア行】

違 意

1

* 15ーウ 45

【カ行】

霞 形

1

* 11ーオ 31

遺 憾

1

* 02ーウ 06

隔 心

1

* 05ーウ 14

異 見

3

* 12ーウ 36

可 笑

1

* 12ーウ 35

一 声

1

* 11ーウ 33

覚 悟

2

* 10ーウ 30

一 旦

1

* 05ーウ 14

感 銘

1

* 03ーオ 07

偉 烈

1

* 06ーウ 17

氣 銘

2

* 02ーウ 06

煙 管

1

* 10ーオ 28

氣 銘

3

* 02ーウ 05

艷 書

1

* 13ーウ 38

氣 銘

2

* 03ーウ 09

煙 草

1

* 10ーウ 29

氣 銘

2

* 05ーウ 14

應 酬

1

* 04ーオ 10

氣 銘

2

* 13ーウ 38

【カ行】／やさ意見↓【ア行】

應 接
戦 接

1 1

* 04ーウ 11

嶋 孤 顯 景 形 傾 堅 空 愚 苦 苦 苦 苦 口 義 鋏 曉 曉 旧 久 帰 疑 喜 喜 氣
 雁 雲 然 色 影 国 確 風 論 勞 勞 心 心 舌 理 刀 月 鳥 府 遠 郷 心 悦 悦
 吹 天

1 1 1 4 1 1 1 1 1 4 4 1 1 2 4 1 1 1 1 1 4 1 1 1 2

* 07 * 09 * 06 * 07 * 06 * 09 * 04 * 12 * 01 * 12 * 10 * 12 * 10 * 14 * 06 * 09 * 08 * 16 * 06 * 14 * 06 * 02 * 16 * 14 * 14
 |
 ウ ウ ウ ウ オ ウ ウ オ オ ウ オ ウ ウ ウ オ ウ オ ウ オ ウ オ ウ オ ウ オ ウ オ
 20 27 18 21 16 25 12 36 01 34 30 34 30 41 17 26 22 48 16 42 16 05 48 40 40

初 初 書 熟 袖 就 慰 愁 首 失 実 実 慈 事 次 思 残 左 **【サ行】** 今 国 好 好 交
 会 会 慮 裏 約 勞 心 尾 策 悲 状 第 案 念 晩 情 夢 月 誼

1 2 1 1 1 1 1 1 2 1 2 2 4 1 4 3 4 2 1 1 1 1 1

* 15 * 10 * 13 * 03 * 16 * 03 * 03 * 09 * 11 * 05 * 03 * 02 * 04 * 06 * 06 * 10 * 02 * 07 * 15 * 04 * 16 * 11 * 06
 |
 オ ウ オ オ ウ ウ ウ オ ウ オ ウ オ ウ ウ ウ オ ウ ウ オ ウ ウ オ オ オ ウ ウ
 43 29 37 07 47 08 69 25 32 13 08 04 12 18 18 28 06 21 43 10 46 32 17

昼 遅 大 他 他 **【夕行】** 俗 即 双 贈 壯 造 潜 赤 世 醉 垂 粹 素 仁 尋 真 真 照
 夜 日 雨 気 郷 論 今 方 答 士 言 行 縄 帯 眠 察 振 慮 問 実 実 光
 生

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 2 2 1 1 3 3 1

* 14 * 08 * 15 * 10 * 09 * 01 * 07 * 13 * 13 * 08 * 01 * 05 * 12 * 10 * 14 * 01 * 15 * 06 * 04 * 13 * 03 * 01 * 11
 |
 ウ ウ ウ ウ ウ オ オ オ ウ ウ ウ オ ウ ウ ウ ウ ウ ウ ウ ウ ウ ウ ウ オ ウ
 42 24 44 30 27 01 19 37 38 23 03 13 35 30 41 03 44 18 12 39 09 01 32

1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1			1	1	1	1	2
* 11 ウ 33	* 08 ウ 23	* 04 オ 10	* 05 ウ 15	* 02 ウ 05	* 13 ウ 39	* 07 オ 19	* 10 オ 28	* 05 ウ 15	* 02 ウ 06	* 04 ウ 11	* 07 ウ 20	* 02 オ 04	* 02 オ 04		* 07 ウ 21	* 08 ウ 24			* 03 ウ 09	* 01 ウ 02	* 14 オ 40	* 10 ウ 29	* 12 オ 34

[illegible]

勞良郎 涙 涙 涙

詞 跡 痕

佛教大学非常勤講師	1	1	1	1	1	1
	*03 ーウ 08	*12 ーウ 36	*11 ーオ 31	*16 ーウ 47	*14 ーウ 41	*15 ーウ 44